

令和 5 年 4 月 2 5 日
関東東北産業保安監督部

関東東北地方鉱山保安協議会関東地区部会を下記のとおり開催しました。

記

1. 日時：令和 5 年 3 月 2 8 日（火） 1 0 時 0 0 分～1 2 時 0 0 分
2. 場所：関東東北産業保安監督部会議室及びオンライン会議室（T e a m s）
3. 議題：
 - （1）審議事項
なし
 - （2）報告事項
 - ①令和 4 年度中央鉱山保安協議会報告について
 - ・「第 1 4 次鉱業労働災害防止計画」に係る告示（案）について
 - ・「特定施設に係る鉱害防止事業の実施に関する基本方針」に係る告示（案）について
 - ・鉱山保安法施行規則等の改正について
 - ・宅地造成等規制法（盛土規制法）改正概要
 - ・鉱山保安法施行規則等の改正について（鉱物名称変更等）
 - ②管内鉱山の保安概況及び第 1 3 次鉱業労働災害防止計画に基づく当部の取組みについて
 - ③令和 3 年度、令和 4 年度鉱山保安表彰について
 - ④令和 5 年度行事予定について
 - （3）その他
今後の鉱山保安について

令和４年度関東東北地方鉱山保安協議会関東地区部会
配付資料

[議事次第](#)

[関東東北地方鉱山保安協議会委員名簿](#)

- [資料１－１](#) 「第１４次鉱業労働災害防止計画」に係る告示（案）について（概要）
- [資料１－２](#) 「第１４次鉱業労働災害防止計画」に係る告示（案）新旧対照表
- [資料２－１](#) 「特定施設に係る鉱害防止事業の実施に関する基本方針」に係る告示（案）について（概要）
- [資料２－２](#) 「特定施設に係る鉱害防止事業の実施に関する基本方針」に係る告示（案）新旧対照表
- [資料３－１](#) 鉱山保安法施行規則等の改正について（衛生に関する通気の確保のため必要な措置等）
- [資料３－２](#) 「鉱山保安法施行規則の一部を改正する省令」（案）新旧対照表
- [資料３－３](#) 「鉱山保安法施行規則に基づき経済産業大臣が定める基準等」に係る告示（案）新旧対照表
- [資料４](#) 宅地造成等規制法（盛土規制法）改正概要
- [資料５](#) 鉱山保安法施行規則等の改正について（鉱物名称変更等）
- [参考資料１](#) 鉱業労働災害防止計画に係る答申
- [参考資料２](#) 特定施設に係る鉱害防止事業の実施に関する基本方針に係る答申

【令和５年３月１日開催中央鉱山保安協議会資料（抜粋）】

- [資料６](#) 管内鉱山の保安概況について
- [資料７](#) 第１３次鉱業労働災害防止計画に基づく令和４年度の当部の取組について
- [資料８](#) 管内及び全国鉱山の災害・鉱害等発生状況について
- [資料９](#) 令和３年度、令和４年度鉱山保安表彰について
- [資料１０](#) 令和５年度行事予定について

令和4年度関東東北地方鉱山保安協議会関東地区部会議事概要

1. 開催日時：令和5年3月28日（火）10：00～12：00

2. 場 所：関東東北産業保安監督部会議室

及びオンライン（Microsoft Teams 会議）によるハイブリッド開催

3. 出席委員：

部会長	大和田 秀二	早稲田大学理工学術院教授
	長田 昌彦	国立大学法人埼玉大学大学院理工学研究科教授
	鈴木 信義	鈴木労働安全コンサルタント事務所所長
	黒田 保秀	秩父鉱業株式会社取締役生産部長兼御堂鉱業所長
	佐藤 雅典	吉澤石灰工業株式会社取締役執行役員常務
	川村 和広	株式会社INPEX国内E&P事業本部 HSEユニットジェネラルマネージャー
	桐生 昌美	JFEミネラル労働組合栃木地区代表
	山谷 良紀	菱光石灰労働組合中央執行副委員長
	金井 一久	JEC連合石油開発労働組合中央委員長

※今泉博之委員は欠席。

4. 議 題：

(1) 審議事項 なし

(2) 報告事項

①令和4年度中央鉱山保安協議会報告について

- ・「第14次鉱業労働災害防止計画」に係る告示（案）について
- ・「特定施設に係る鉱害防止事業の実施に関する基本方針」に係る告示（案）について
- ・鉱山保安法施行規則等の改正について
- ・宅地造成等規制法（盛土規制法）改正概要
- ・鉱山保安法施行規則等の改正について（鉱物名称変更等）

②管内鉱山の保安概況及び第13次鉱業労働災害防止計画に基づく当部の取組みについて

③令和3年度、令和4年度鉱山保安表彰について

④令和5年度行事予定について

(3) その他

今後の鉱山保安について

5. 議事概要

(1) 報告事項

事務局より各事項について報告した。委員からの主な質疑は以下のとおり。

① 令和4年度中央鉱山保安協議会報告について（資料1－1～資料5）

（委員）

- ・資料1－1の2.（4）鉱業関係団体の「民間資格制度「保安管理マスター制度」の運用や改善をはじめとした」について、具体的な取り組みを教えてください。

（事務局）

- ・具体的な中味は決まっていないが、鉱山災害防止対策研究会で、保安管理マスター制度の拡大や充実を希望する意見が出ていた。

（委員）

- ・資料1－1で後ろにあった項目を前にもっていくというのは、その項目の重要性が増したからか。

（事務局）

- ・鉱山災害防止対策研究会で、項目の整理や重視すべき項目を後ろから前にという意見が出ていた。

（委員）

- ・資料2－1の坑廃水処理の説明の中で、1.7億円弱位補助金が出ているという事だが全国分の補助金額か。

（事務局）

- ・関東管内の7鉱山分のみの補助金額。国庫補助金額なので、坑廃水処理事業費はそれ以上の金額になる。全国分の補助金額については手元に資料がない。

（委員）

- ・資料1－1で、IT技術を使った取り組み内容が含まれているが、実際の取り組みとかそれをどうサポートするのか。

（事務局）

- ・国のサポート内容については決まっておらず、今後、本省と各監督部で議論していく。中央鉱山保安協議会では、全体的には遅れている中小企業とか小規模鉱山を中心に手厚いサポートができるようにという意見が出ていた。

（委員）

- ・ある程度規模がある鉱山は良いが、個人でやっているような鉱山でやれない鉱山もあると思うので、このあたりをどうフォローしたらよいかを考えてもらえれば良いかと思う。

②管内鉱山の保安概況及び第13次鉱業労働災害防止計画に基づく当部の取り組みについて（資料6～資料8）

（委員）

- ・資料6について、全国災害において令和4年になった途端、墜落災害が0件になった理由を教えてください。

(事務局)

- ・当監督部では監督指導方針の中で発生頻度の高い災害として墜落を取り上げ、立入検査で墜落の危険がないか、作業手順が整備されているかを監督指導している。各監督部でも墜落災害が多い状況は変わらないので、各監督部も努力をしているのかと思われるが、その理由は分からない。減少傾向にあるのかは、今後の数値を見なければ分からない。

(委員)

- ・何処の事業場でも転倒災害が急激に増えている。転倒災害の増加と就業している労働者年齢の相関関係のデータが今後出てくればと思う。

(委員)

- ・資料6の鉱山労働者数の推移のところで、他の業種では全体的に労働者数が下がる傾向にある事に対して、鉱山労働者の推移はキープされている状況。その原因を教えてください。

(事務局)

- ・一因として、石油・天然ガス鉱山の場合、坑井掘削時に請負業者を入れて作業を行うため、坑井を掘削する期間は鉱山労働者数が増える。これがどのくらいの影響を与えるかの分析は行っていない。常時雇いの鉱山労働者数は減少傾向にある。

(委員)

- ・資料7で、マネジメントシステムが導入されているのは、石油・天然ガス、石灰石、金属非金属の順番だか、これは規模の問題か。

(事務局)

- ・そのとおり。石油・天然ガス鉱山は世界で展開する企業もあり大規模な事業場が多い。石灰石鉱山も大きな企業・事業場が多くなるので、その結果が反映されていると思う。

③令和3年度、令和4年度鉱山保安表彰について（資料9）

④令和5年度行事予定について（資料10）

（質疑なし）

(2) その他

今後の鉱山保安について各委員からの主な意見は以下のとおり。

- ・コロナの影響を受けて全体の資源の使われ方が変わってきているような気がする。コロナ渦で企業努力しながら進められているが厳しくなっている部分もあるかと思うので、そのあたりのケアをうまくしてあげられたらよいかと考える。
- ・先日、保安指導と講話に行った。頭の中でリスクアセスメントをやっているとは思いますが、場内を歩いてもその見える化がされていない。また、最近は地元の人を雇えなくて、

以前のように地域の方々が我々の鉱山として見てもらえなくなってきたという話を聞いた。鉱山の中の安全化、リスクアセスメントの見える化と、地域とどういう風に繋がって安全な企業にしたいんだという伝わりを地域ぐるみで作っていく、この2つが大きな問題なのかなと感じた。

- ・私どもの鉱山でもコロナの影響による需要の変化やエネルギー等価格の値上がり状況の影響がかなりあるが、それらに負ける事無くできるだけ鉱山一丸となって安全に作業をするという事を今年度は更に進めていきたい。
- ・今後、場所を特定したリスクアセスメントを進めて、不安全状態を無くしていく活動を進めていく。
- ・高齢労働者の安全確保について、中央労働災害防止協会のエイジアクション100のチェックリストに基づき職場点検をしている。エイジアクション100チェックリストは様々な職場で活用できる網羅的なツールであると感じる。一方で、過去鉱山災害と結びつけてこういう所を重点的にチェックしましょう等の鉱山目線で見た補助的なエイジアクション100ツールみたいなものがあれば事故防止に向けて更に具体的・集中的に職場点検を実施しやすいのではないかなと思う。検討してほしい。
- ・GHG（温室効果ガス）削減に向けて、会社としても新規事業等取り組んでいるが、新規事業は適用法令がどこにあるのか難しいため、適時・適宜、監督部に相談していきたい。
- ・会社側の努力だけでは安全は成り立たない。働く人のルールを守る努力も必要。
- ・作業員全員が作業前にリーダーを中心に作業基準書を読み合わせしてその後に作業前KYを行い作業をする事、また、転落・転倒防止について、各作業歩廊、作業床を皆で点検し悪い所の洗い出し作業を行う事に力を入れている。
- ・鉱山保安とは関係ない話になってしまうが、社有車を運転する際には、アルコールチェッカーによる第3者の確認を行っている。
- ・若い世代は人と人とのつながりが希薄な方向に動いているのかなと感じており、そういった中で保安の在り方を見ると、技術の伝承や安全の担保の仕方についても変化が生じているのかなと日々感じている。今回の協議会で若齢者と高齢者に事故が多いという報告を受けた。こういった状況の変化に応じた対応が今後必要なのではないか。
- ・天然資源の重要性は非常に高い。今後もその基礎となる保安に気をつけてほしい。
- ・人員をどう確保するのが非常に難しい。なるべく小さい頃から天然資源の重要性を説く試みを常に心がけてほしい。
- ・鉱山全体の労働者数はあまり変わっていないようで安心したが、恐らく年齢構成がだいぶ変わっているので、どう若返りをさせていくのかという対策をこの部会だけではなく全体で行っていく必要がある。

以上